

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年8月27日（金） NO15 文責 木下 文秋

言霊（ことだま） ～ことばに宿る力

東京オリンピックが開催されました。コロナの感染拡大で色々な意見がぶつかり合う中で強引に開催された感じは否めませんが、さすがに始まってみれば、多くのアスリートの活躍に日本中がわきました。みなさんはどの競技、どのシーンが印象に残ったでしょうか。私は女子バスケットの銀メダルが特に印象的でした。開催前は、八村選手や渡邊選手などNBA選手がそろった男子バスケットの躍進が期待されましたが、あえなく敗退。女子は特にクローズアップされていませんでしたが、接戦を見事に勝ちきりアメリカとの決勝戦に臨みました。その中でも特に女子バスケットチームのヘッドコーチを務めたトムホーバスさんにとっても魅了されました。トムホーバスさんは、もともと日本のバスケットチームで活躍した選手で、2017年に女子チームのヘッドコーチに就任しています。その時抱負を聞かれ「東京オリンピックでアメリカと決勝を戦い金メダルを獲得することです」と言うと、周りから失笑されたそうです。「失笑」とは笑ってはならないような場で、あまりのおかしさに思わず吹き出してしまうことを意味します。アメリカに勝つなんて誰も信じなかったし、できるはずもないことを良くも言うもんだ…と思われたのでしょうか。しかし、彼は決勝でアメリカと戦うことを現実としました。結果は15点差の惜敗でしたが、彼がとても上手な日本語で選手を鼓舞するシーンを見て、私はとても感動しました。彼は「多少の間違いがあっても、自分の言葉で伝える方がインパクトがあるとの考えから選手の指導、日本国内のマスコミへの対応も通訳を介さず日本語で行なうこと」としてきました。日本には「言霊」という言葉があります。言葉に宿る力を意味しており、自分の思いを実際に口にすることで、その思いが実現することを言います。甲子園で優勝するとか、金メダルを獲るということを口にして実際にかなえた人がいます。やはり夢を夢で終わらせないためには、実際に口にしてそのための努力を積むことが大事なんだと思いました。残念ながらトムホーバスさんは、日本から離れてアメリカに戻る意志を表明しているそうです。彼の存在なしに、今回の銀メダルは語れなかったと思います。そして最後に彼は、日本代表についてこう発言しています。「日本はスーパースターはいないけど、スーパータームだった」